

第 2 回総合教育会議のなかで出された各委員の教育大綱への盛り込みに関する意見

○基本目標（1）の子ども一人ひとりの力を伸ばし、「生きる力」を育みます の項目に入れ込むのがよいのでは。ここには児童生徒のことが多く書かれてあり、乳幼児のことを含めること乳幼児保育教育カリキュラムにも「心豊かでたくましく生きる力を育む」ことを目標に掲げられている。

案の 3 番目「保幼小連携を図り、小学校以降の円滑な接続や発達と学びの連続性を大切に、乳幼児期からの保育・教育の充実を図ります」がよい。目指すところは就学前教育の充実を図ること、充実を図ると言い切る終わり方がよい。

○公約としてわかりやすくするためにも、何をアウトプットとしてやっていくのか。取り組みの連続性がわかる大垣や敦賀のようなロードマップもある。彦根として何を重点にやっていくのか。中项目的なところで具体的に就学前教育に対して入れていくとか。

○就学前教育の問題として、待機児童の問題など保育環境が充実していないという社会的な課題もある。彦根は幼稚園が定員割れという状況もある。保幼一体化してこども園化を進めると保育と教育の文化の違い、考え方の違いの問題もある。

保育・教育の充実というのは独立した項目としてあげて、小学校への接続や発達の学びの連続性というところは別にするほうがよい。保育環境の整備も含める。

案の一番目「乳幼児期からの保育・教育の充実を図るとともに、小学校への円滑な接続や発達と学びの連続性を大切にします」をベースにすればどうか

○大綱としては、連続性、一貫した考え方で貫かれることが重要である。それぞれの部署のそれぞれの立場があるが、同じ方向を向いた、共有できるものとして整理できるものであればよい。

○一貫性という言葉をよく言われているが、保幼がうまくいっていないようにも聞こえる。一貫性をということなら、保幼小連携のキーワードは必要である。

案の 2 番目「乳幼児期における学びの芽生え、学びに向かう力に焦点をあてた、保育・教育の充実を図るとともに、保幼小連携を図り、小学校以降の円滑な接続、発達と学びの連続性を大切にします」をベースにすればどうか。

○就学前教育の充実が生きる力をのばすということ。それをうまく言葉にできるとよい。

○どうなったら解決なのかというところはわかりにくいのかな

○就学前というのは、小学校から見た言葉であるので、乳幼児からの保育・教育の充実としたほうがよいのでは。保幼小（中）連携の強化を入れればどうか。